

令和2年度実施中間評価に係る基本的方針案（評価項目）

資料 3-2
2019.12.2

大学が作成したロジックモデルを参考に、アウトカム（※）と関連付けて、事業の実績及び自走化について評価を行う。

I. 項目別評価

1. 取組状況

以下の項目ごとに、**アウトカムと関連付けて**、事業の成果又は発展への課題等の評価を行う。

- ① 構想の実施状況（補正後の構想について評価）
- ② 構想実現のための体制構築
- ③ 平成29年度中間評価留意事項への対応
- ④ 国際的評価の向上（タイプAのみ）
- ⑤ 国際的評価に関する教育・研究力（タイプAのみ）
- ⑥ 大学の特性を踏まえた特徴（タイプBのみ）

2. 目標の達成状況

以下の項目ごとに、**各大学のロジックモデル（※）における初期アウトカムと関連付けて**評価を行う。**中・長期アウトカムが得られていることが認められる場合は加点の対象とする**。大学が選択していない項目は、**各数値のフォローアップを行うこととし、評価の対象にはしない**。

- ① 成果指標と達成目標（共通項目、選択項目）
- ② 大学独自の成果指標と達成目標

3. 財政支援期間終了後を見据えた自走化

補助金による支援終了後を見据えた**自走化計画の内容及び進捗状況**について、**中・長期アウトカムと関連付けて**、①徹底した「**大学改革**」と「**国際化**」の断行による大学の体制や組織文化そのものの**国際通用性の強化及び大学の国際競争力の向上**と、②**財政支援期間終了後を見据えた財源確保**の2つの観点から評価を行う。

4. 経費（補助金等）の使用状況

経費（補助金等）が適切かつ効果的に使用されたか、投入された補助金額に比して十分な取組が行われたか、及び**自走化計画の進捗状況を評価する**という観点から考慮する。

II. 総括評価

「I. 項目別評価」における評価結果を踏まえ、各事業の**実績の全体**について評価を行う。

- (※) 用語の意味
- ・アウトプット：アクティビティによる活動実績
 - ・アウトカム：アウトプットがもたらす状況の変化、人の行動変容、その他成果
 - ・ロジックモデル：各大学の構想（事業目的）の実現に至るまでの因果関係の仮説を体系的に図示したモデル図。

インパクト

日本の大学において、

- 世界を舞台に活躍できる人材の輩出
 - 各分野における世界第一線の研究に基づく技術革新
 - 世界中から優秀な留学生が集い、人材のハブが形成され、我が国の国際化が進展
- これらが絶えず生み出される「社会システム」の構築

構想の実現

中・長期アウトカム

大学の**体質改善**により、**組織文化が変化** → **大学の国際競争力強化** → **高等教育の国際通用性**

国際化を先導するグローバル大学を日本に創設

- 外国人教員・留学生の受け入れ環境整備
- 日本人学生のグローバル化（語学力、国際感覚・教養）
- 国際交流・研究ネットワークの構築（共同学位の授与等）

「3. 自走化」で評価

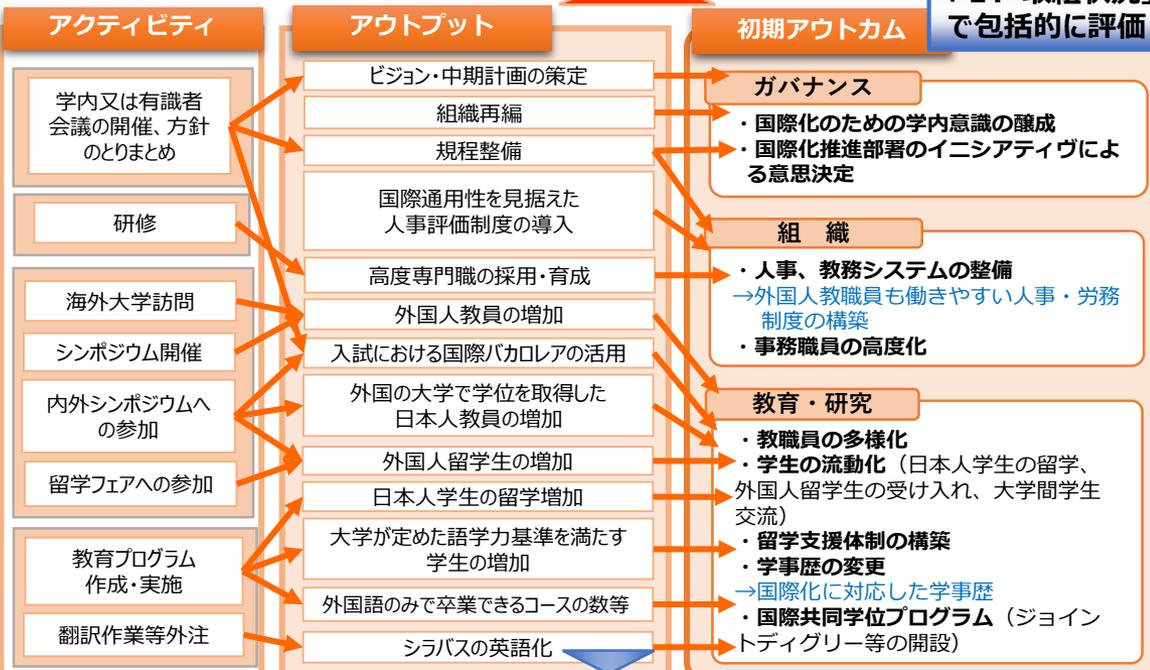
補助金終了後の自走化

SGUの成果普及

SGU以外の大学

SGUの成果を踏まえ、各大学の特性・事情を踏まえ国際化

「1. 取組状況」で包括的に評価



「2. 目標の達成状況」で、アクティビティ・アウトプットとアウトカムの繋がりを評価

※上図は事業全体のロジックモデルであり、アクティビティやアウトプットは例示である。